

項目	みどり豊かな森林環境づくりの推進	NO	2-4
事業名	生物多様性戦略推進事業		
事業費	2,725 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課

1 目的

森林生態系を始めとする自然環境について、総合的なモニタリング調査を実施して、早期に異変等を把握し、必要に応じて保全対策を実施し、「多様な生態系を育む、みどり豊かな山形」を未来に継承していく。また、調査結果等を蓄積するとともに、広く県民に情報提供を行い、生物多様性の保全と持続可能な活用に向けた意識の醸成や普及啓発を実施する。

2 事業概要

(1) 自然環境現況調査

- 森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、動植物の生育・生息動向などの自然環境の変化の継続的なモニタリングを実施。（県内6箇所）

(2) ブナ・ナラ豊凶調査

- 動物の生息動向に大きな影響を与えるブナ等堅果類の豊凶について調査を実施。（県内30箇所）
- 秋季の森林環境の異変と動物の出没動向を把握するため、山の実り調査を実施。

(3) 希少野生生物分布調査

- 希少野生動物の保全対策に活用するため、県内分布・生息状況調査を実施。

(4) 改訂版レッドデータブック掲載種選定委員会の開催

- 動物の分類群のうち、哺乳類、爬虫類、両生類、陸・淡水産貝類、甲殻類レッドリストについて、選定委員会において審査・改訂。

(5) 森林生態系保全モニタリング事業

- 山形蔵王のアオモリトドマツ被害林について、早期再生や更新を図ることを目的に、ササの密度や地表面に堆積する有機物に着目して後継樹の生育適地を調査。さらに、それらの結果を踏まえた播種試験を実施。

(6) 自然環境モニタリング総合検討委員会の開催

- 自然環境モニタリング調査の方法の検討や結果の分析、対策の検討を実施。

3 成果と課題

【成果】

- 自然環境現況調査により、今回の調査地域では以前に確認された希少種が概ね今回も確認できており、大きな環境変化は見られなかった。調査結果は今後、県の関係部局や市町村、地域住民と共有し、生態系の保全対策に活用していく。
- ブナ・ナラ豊凶調査では、調査結果を県HP等で公表し、広く県民に周知を図るとともに、クマの被害防止のため、秋の注意喚起通知等に活用。
- レッドリスト改訂について、希少野生生物分布調査や委員への意見照会を実施。

- 森林生態系保全モニタリング事業により、稚樹が多く生育していたのはササの密度が低く、かつ、堆積有機物の少ない林床であったため、アオモリトドマツの更新を促すためには、ササの刈払いに加えて、枯葉等も除去する必要があることが分かった。

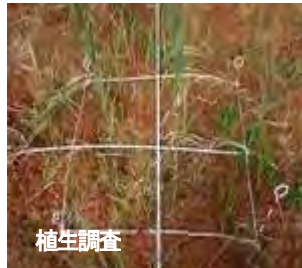
【課題・対応】

- 自然環境現況調査で得られた希少種等の情報を基に、今後の具体的な保全対策の手法等について検討していく。
- 自然環境現況調査結果の分析、活用方法や今後の調査方法を協議するため、専門家等で構成する自然環境モニタリング総合検討委員会を開催。
- ブナ・ナラ豊凶調査について、県内のナラ枯れ被害の拡大にともない、調査対象木の枯損によってデータの収集が難しくなっている箇所もあり、調査不能箇所では調査箇所を追加することを検討していく。
- 森林生態系保全モニタリング事業では、予備的に実施した播種試験では大半の種子が小動物に捕食されてしまったため、来年度は金網等で捕食防止の対応を行い、種子の発芽率や成長量について調査する。

やまがた緑環境税を活用した取組み

〔 平成 29 年度生物多様性戦略推進事業の取組状況 〕

自然環境現況調査 (自然環境や希少野生生物の現況調査)



前年度調査 → 保全対策の事例
(希少植物の埋土種子の探索)

ブナ・ナラ豊凶調査 【県内30箇所】



HPで情報発信



ブナ豊凶予測と豊凶実績



自然環境モニタリング総合検討委員会



調査の手法や実施箇所等の見直しについて検討等を行う。

希少野生生物分布調査

絶滅危惧種等の希少野生生物(動物)について、保全対策に活用するため、県内分布・生息状況調査を実施。

改訂版レッドデータブック掲載種選定委員会

動物の分類群のうち、哺乳類、爬虫類、両生類、陸・淡水産貝類、甲殻類について、希少野生生物分布調査の結果等を参考にレッドリストの改定に向けた作業を実施。

項目	みどり豊かな森林環境づくりの推進	NO	2-5
----	------------------	----	-----

事業名	鳥獣管理推進事業		
事業費	8,296 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課

1 目的

(1) ツキノワグマ生息状況調査

近年大量出没し、人身被害や農林業被害等を引き起こすことから、その管理に資するため生息状況の調査を実施する。具体的には、春季捕獲時の目視調査と春季捕獲が出来なくなってきた地域において、カメラトラップを用いた調査を行い、ツキノワグマの生息数の把握を行う。

(2) 里山に出没する大型野生動物生息動向調査

県内の大型野生動物の生息情報収集等を実施し、ニホンジカ、ニホンザル等森林生態系を形成する野生動物の動向をモニタリングすることで、人と野生動物との共存や森林・林業等へ被害の未然防止に寄与する。

(3) 野生鳥獣等目撃情報収集調査

ニホンジカの日撃情報収集等を実施し、ニホンジカに対する対策等の検討を行う基礎資料とする。

2 事業概要

(1) ツキノワグマ生息状況調査

- ・ 春季捕獲時の目視調査 実施箇所 8 山系 2 2 箇所
残雪期の春季捕獲を行う時に合わせて目視による調査を実施。
(一般社団法人 山形県猟友会に委託して実施)
- ・ カメラトラップ調査
実施箇所 2 山系 神室・加無山系(最上町)、御所山系(尾花沢市)
自動撮影カメラによる個体識別等により、生息数を把握。
(山形県環境科学研究センターで実施)

(2) 里山に出没する大型野生動物生息動向調査

大型野生動物について自動撮影カメラによる生息動向調査、野生動物に関する市町村アンケートを実施。(山形大学に委託して実施)

(3) 野生鳥獣等目撃情報収集調査

県内に生息域を広げるニホンジカの日撃情報の収集を実施。

3 成果と課題

【成果】

(1) ツキノワグマ生息状況調査

- ・ 目視調査により、県内のツキノワグマの生息頭数を把握するとともに、捕獲数水準の基礎データが得られた。
なお、人身被害の増加から春季捕獲の要望数が増加している。
- ・ カメラトラップ調査について、個体識別の結果、神室・加無山系でおおよそ 5 頭、御所山系で 30~40 頭のクマの生息を確認した。

(2) 里山に出没する大型野生動物生息動向調査

- ・ 自動撮影カメラによる調査により、ニホンジカの撮影回数が多くなっていた。
- ・ 市町村アンケートにより、イノシシは今までいなかった最上・庄内へ広がり、ニホンジカは県全域へ生息が広がっていることがわかった。

(3) 野生鳥獣等目撃情報収集調査

- ・ 県内各地域からニホンジカの日撃情報が寄せられた。

【課題・対応】

(1) ツキノワグマ生息状況調査

- ・ 春季捕獲を行う箇所について目視調査箇所を増やして行う。
- ・ カメラトラップ調査について、ベイズ法による推定を試みたが、収束しなかったことから、カメラの台数及び配置について適切になるように対応していく。

(2) 里山に出没する大型野生動物生息動向調査

- ・ 引き続き、調査を実施し、イノシシ・ニホンジカ被害の分布拡大を注視し、ホームページ等を通じて情報提供していく。

(3) 野生鳥獣等目撃情報収集調査

- ・ 事故個体をカモシカと間違えるケースがあったことから、関係機関に注意してもらおうよう呼びかけていく。

やまがた緑環境税を活用した取組み

【平成29年度鳥獣管理推進事業の取組事例】

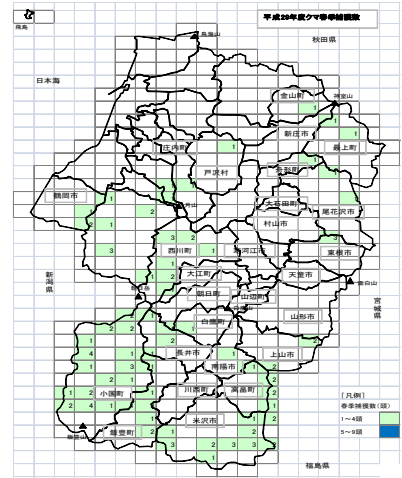
1. ツキノワグマ生息状況調査

(1) 春季捕獲時の目視調査

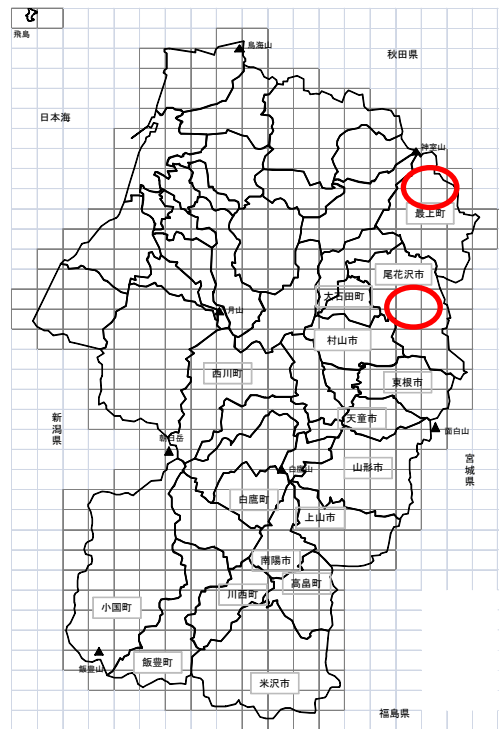
8山系 ①鳥海山系②神室・加無山系③御所山山系
④朝日山系⑤蔵王山系⑥豪士山系⑦吾妻山系⑧飯豊山系
22地域で調査を実施した。

(2) カメラトラップ調査 撮影状況

昨年に引き続き、神室・加無山系（最上町）と
御所山系（尾花沢市）にカメラをそれぞれ40台設置した。
（蜂蜜餌あり20台、カメラのみ20台）



春季捕獲位置図



神室・加無山系（最上町）
及び御所山系（尾花沢市）



尾花沢市御所山



尾花沢市母袋



尾花沢市吹越

やまがた緑環境税を活用した取組み

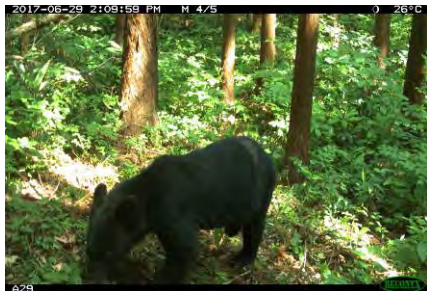
【平成29年度鳥獣管理推進事業の取組事例】

2. 里山に出没する大型野生鳥獣生息動向調査

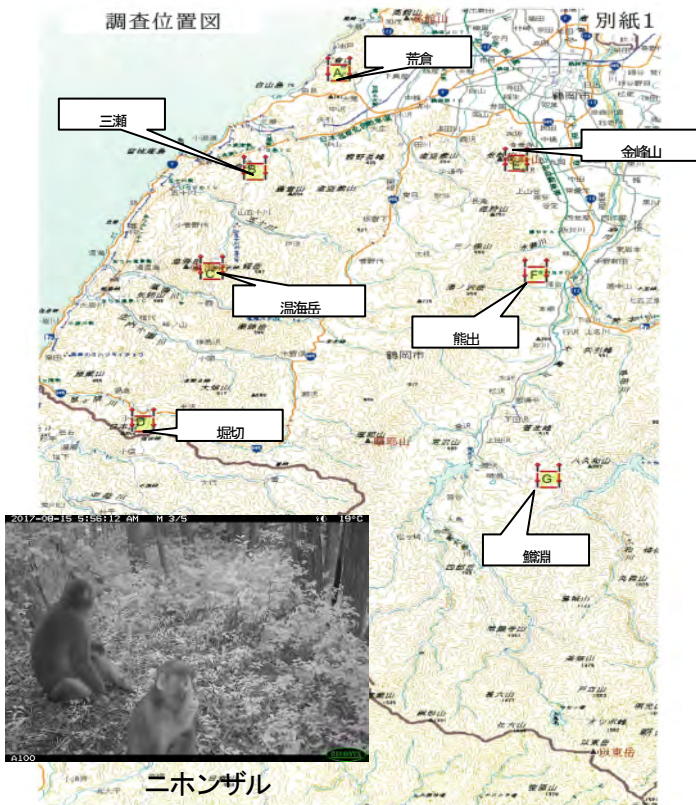
(1) イノシシやニホンジカ等の低密度の大型野生動物について、自動撮影カメラにより生息動向を把握した。(鶴岡市内7地点)



ニホンジカ
(鱒淵3、金峰山2、三瀬1)



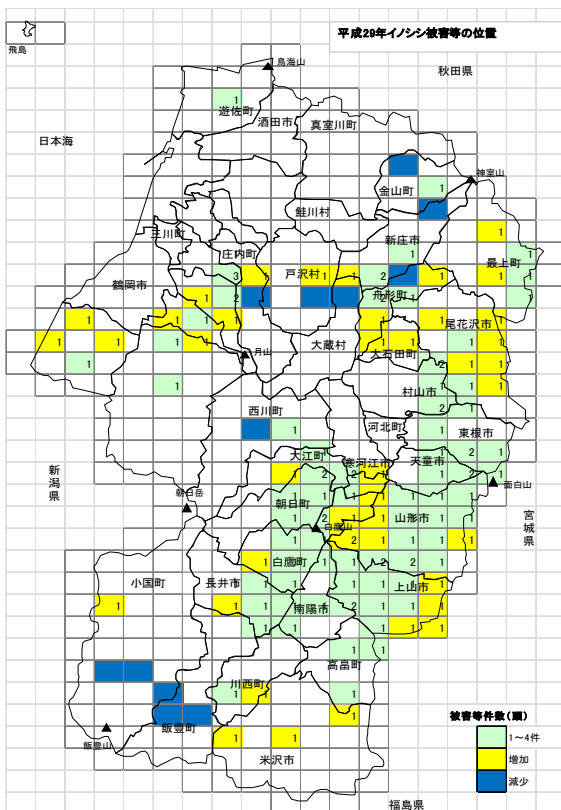
ツキノワグマ



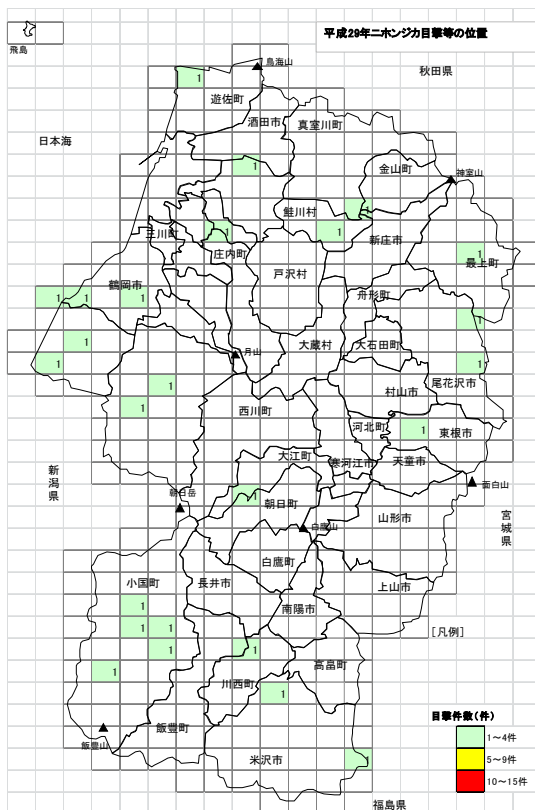
ニホンザル

【市町村アンケート】結果

イノシシの被害状況



ニホンジカの目撃状況



項目	みどり豊かな森林環境づくりの推進	NO	2-6
----	------------------	----	-----

事業名	野生鳥獣捕獲体制強化支援事業		
事業費	220 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課

1 目的

森林生態系の構成要素である野生動物の保護管理を担う狩猟者を育成するため、狩猟免許試験受験予定者向け講習会を実施する。

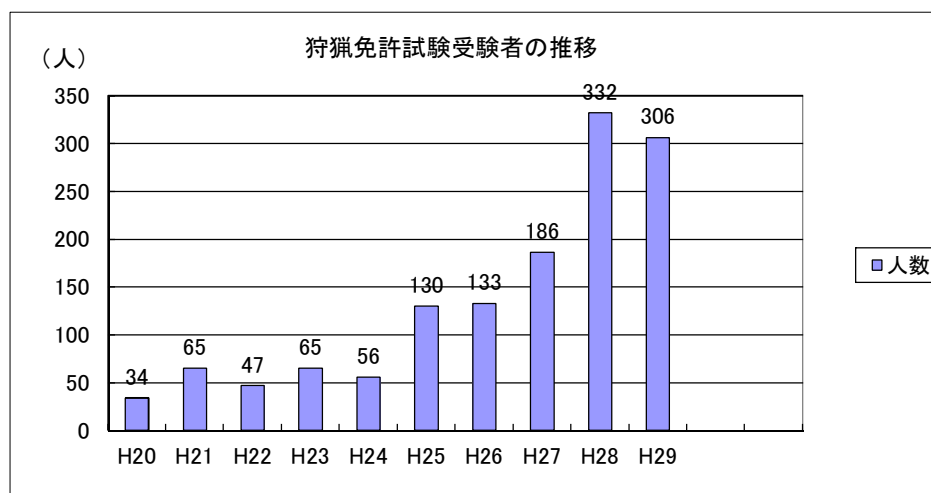
2 事業概要

狩猟免許受験予定者に対し、鳥獣保護管理法、わな・猟銃等の技能、野生鳥獣との共生の意義等について、事前に理解を深めてもらうための狩猟免許試験受験予定者向け講習会を開催。

3 成果と課題

【成果】

初心者講習会を昨年度に引き続き3箇所で開催した。
 受験者がH25年以降増加傾向にあり、平成29年度は306人となっている。
 6月24日（土） 庄内会場 82名（H25 34名、H26 20名、H27 43名、H28 47名）
 7月22日（土） 置賜会場 68名（H28 86名）
 8月12日（土） 村山会場 121名（H25 64名、H26 80名、H27 113名、H28 153名）
 講習会参加者 合計 271名
 全体受験者306名（H25 130名、H26 133名、H27 186名、H28 332名）
 ※ 合格者 295名



【課題・対応】

講習会の人数が増えているため、平成30年度は最上会場での開催を追加することとし、関係者と調整をしていく。

やまがた緑環境税を活用した取組み
【平成 29 年度野生鳥獣捕獲体制強化支援事業の取組事例】

狩猟免許試験受験予定者向け講習会

平成 29 年 6 月 24 日庄内会場(82 名参加)の実施状況



平成 29 年 7 月 22 日置賜会場(68 名参加)の実施状況



平成 29 年 8 月 12 日村山会場(121 名参加)の実施状況



項目	みどり豊かな森林環境づくりの推進	NO	2-7
----	------------------	----	-----

事業名	大型野生鳥獣等野生復帰事業		
事業費	1,310 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課

1 目的

人と自然が共生する森づくりの一環として、森林生態系を支える多様な野生鳥獣の保護のため、傷病等で救護又は捕獲された大型鳥獣の野生復帰の総合的な治療訓練、移送、放鳥獣を行う。

2 事業概要

野生鳥獣の専門家（獣医師等）を擁する事業所に委託し、傷病等で救護又は捕獲された野生鳥獣の野生への復帰を実施。

- ・ 県内各地で救護又は捕獲された野生鳥獣に対し、必要に応じて現場で治療を行い、地域住民等の協力を得て、安全な奥山等へ移送し放鳥獣を実施。
- ・ 県内の野鳥救護所及び野生獣類救護所で救護され、状態が落ち着いた野生鳥獣を救護所から引き受け、必要に応じて総合的な治療訓練を行い、安全な奥山等へ移送し放鳥獣を実施。

3 成果と課題

【成果】

- ・ 救護所の巡回指導により、收容されている鳥獣の治療訓練及び現地における治療を実施した。巡回8回
- ・ 通報を受けて、現地確認し、治療等を行い、救護所に移送又は放鳥獣を行った。放獣7件（サル5件、カモシカ2件）

	処置後放獣	救護所へ移送	現場確認（治療）	死亡	電話対応のみ	合計
巡回			8			8
通報	7	2	18	3	6	36
合計	7	2	26	3	6	44

【課題・対応】

- ・ ツキノワグマの市街地出没やイノシシわなへのツキノワグマの錯誤捕獲への対応等で、今後業務が増えるおそれがあるが、県内で本業務を実施できるのは、上記の獣医師1名しかいない状況である。
そのため、野生動物の救護に関する研修会を開催し、県内における野生鳥獣の救護業務を担う人材の育成を図る。

やまがた緑環境税を活用した取組み
【平成 29 年度大型野生鳥獣等野生復帰事業取組事例】



天童市内で救護されたカモシカ



米沢市内で救護されたニホンザル

救護又は治療した野生鳥獣の状況